



学校教育目標『つなげる 続ける 創り出す』

令和5年6月22日

横浜市立三ツ境小学校

三ツ境小だより 7月号



「見守る」

校長 飯田 雅人

5月27日（土）に行われた「三ツ境スポーツフェスティバル」では、子どもたちにたくさんの方の応援を送っていただき、ありがとうございました。皆様のご協力のおかげで、笑顔いっぱいスポーツフェスティバルの一日にできたと思います。子どもたちは、大きな行事を経験することを通して成長していきます。次の場面でのさらなる活躍が楽しみです。

さて、以前にスポーツ交流という話題の中で次のようなお話を聞いたことがあります。小学生を対象としたある地域のサッカーチームの監督のお話です。

「ここ5～6年、サッカーをするチームの子どもたちの様子に異変を感じた。練習を始めるよというコーチの指示があるまでは子どもたちは座り込んで自分たちでボールを触ろうともしない。確かに優れた技術をもった子どもたちはたくさんいるが、まず練習中に笑顔がなくなった。チーム内のパス回しを見ていると、力の強いある特定の子にしかパスが回らない。コーチの指示通りにしか動くことがなく、挙げ句の果てには、チーム内の子どもたち同士や保護者の間にまで、レギュラーとサブのメンバーの中でトラブルが起こる・・・など数年前には見られなかった光景だ。」というものでした。要するに子どもたちの中にサッカーを通しての心の育ちが見られないということです。さっそく指導者たちは、子どもたちのために指導法の改善に取り組んだそうです。今までの指導法はコーチも保護者も子どもたちへ指示が多すぎたのではないかと、また子どもたちに試合の結果だけを求めすぎたのではないかと等と。

学校の中でも教師の指示が多くなればなるほど、子どもたちは自分で考えることをしなくなり、指示待ちの姿勢になりがちです。言われたことはできるかもしれないが、自分たちで何とかしようとする姿勢がなかなか備わらないということです。子どもたちだけに任せると、時には当然トラブルが起きたり、悩んだりすることも出てきます。でもその時こそが、子どもたちに自分たちで解決しようとする力を身に付けさせるための絶好のチャンスなのです。教師が子どもたちの様子をほどよい距離で見守る必要があると思うのです。ただし安全などに関わることには、教師の早急な指導が必要なことはいまでもありません。ご家庭での保護者の方のわが子への接し方にも相通じる所があるかと思います。

話は変わりますが、本校では、子どもたちの安全を守るために、登下校時はもちろんのこと下校後の様々な場面においても、多くの地域の皆様が子どもたちの様子を見守ってくださっています。大変ありがたいことです。この場をお借りしてお礼申し上げます。学校だけでできることには、限界があります。今後とも、子どもたちの安全を守るために、いわゆる“ながら見守り”で結構ですので、ご協力いただけると幸いです。よろしくお願い致します。